

まばゆい^{ひかり}光の
カケラたち

ちい^{どうわ}さな^{さくひんしゅう}童話 作品集
～

そえみかなで
添見奏音





もくじ

はらぺこカエルののこしもの……………	5
バオとボオ……………	17
獅子舞 ししまい がにげだした!……………	27
ミツ丸 まる ハチ助 すけ 奮闘記……………	37
ぼくとワラシのものがたり……………	59
みつばちと修行僧 しゆぎやうそう ……………	71
まばゆい光 ひかり のカケラたち……………	83
ちいさなドロール……………	93
黄金色 こがねいろ の風景 ふうけい の中 なか で……………	122
あとがき……………	117



はらぺこカエルののこしもの



ある町に、一匹のカエルがいました。

カエルはいつも腹ぺこで、食べものを探して、町じゅうをぴよんぴよん、飛び回っていました。

あるときは、市場にならぶ魚やハムや、トマトやオレンジをぺろりとたいらげ、

また、あるときは、子どもたちのおやつを、

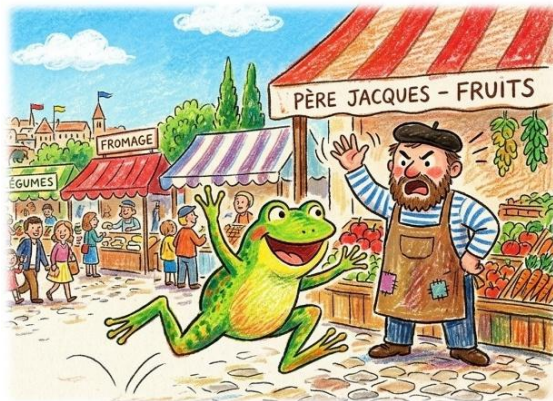
ぴよんぴよん、ぱくぱくつと、食べてしまいました。

ほったたもお腹も、ぱんぱんに膨れ上がるまで食べたなら、

「ケロッ」とひと鳴きして、大きな口をあけ、

もこもこの黒いかたまりを、

ぽんぽーんと吐きだすのです。



バオとボオ



あるところに、バオとボオという、とても仲良しの二匹の子グマがいました。バオとボオは、いつもいっしょにあそびました。

ある日、バオとボオは、自分たちの食べ物交換しました。
「とっても、甘いリンゴだね」

「とっても、みずみずしいリンゴだね」

ある日、バオとボオは、自分たちの服を交換しました。

「とっても、オシャレなセーターだね」

「とっても、あったかいセーターだね」

ある日、バオとボオは、お気に入りの絵本を交換しました。

「とっても、おもしろい絵本だよ」

獅子舞がにげだした！
ししまい



ここは、とある町の電車の駅。

ある日のこと、大きな古びた木箱の忘れ物が駅員室に届きました。

駅員さんたちは、みんな困り顔。

「中身は一体、なんだろう？」

蓋を開けようと、手をのばしたその時、

ガタガタガタツ

木箱が動いて、蓋がパカッと開きました。

中にはなんと、獅子舞の獅子が入っていて、目をキョロキョロとさせているではありませんか。

「おや、ここはどこじゃ？」

みつばちと修行僧

しゅぎようそう



むかしむかし、あるところに玄暁げんぎょうという若い修行僧しゆぎようそうがおりました。

ぼろぼろになった着物きものを纏まとった玄暁げんぎょうは、経きようを唱となえながら、ひとり険しい山道やまみちを歩いておりました。

その経きようがふと止やんで、玄暁げんぎょうはよろよろと木の根元ねもとに腰こしを下おろしました。

「腹はらが……空すいた……」

容赦ようしやなく照てりつける太陽たいようを見上みあげると、玄暁げんぎょうは立ち上あがり、また歩あるき出だしました。

その時とき、どこからともなく一匹いっぴきの蜜蜂みつばちが飛とんできて、玄暁げんぎょうの周まわりをくるくると回まわり始めはじめました。

「おや、蜜蜂みつばちさん。一体いったい、何なんのご用ようかな？」

玄暁げんぎょうは微笑ほほえみながら、蜜蜂みつばちに話はなしかけました。

その声こえに答こたえるかのように、蜜蜂みつばちは玄暁げんぎょうの被かぶる笠かさにツンツンと合あ図いずをすると、お尻しりを向む

ちいさなドロール



春^{はる}

小川^{おがわ}のかたすみで

ひとつの ちいさな命^{いのち}が生ま^うれました。

生ま^うれたての おたまじやくしは

ひゆるひゆるひゆると泳^{およ}ぎ

川面^{かわも}に ぴよこんと顔^{かお}を出^だしました。

空^{そら}のいろ 雲^{くも}のいろ おひさまのいろ

水^{みず}のいろ 草^{くさ}のいろ 石^{いし}ころのいろ

彼^{かれ}は はじめて見る^み世界^{せかい}が

うれしくて しょうがありませんでした。

